



印旛ネットの活動報告をします

印旛ネット発足の経緯

- 千葉大学附属情報実践センターの協力
 - ホームページの設置
 - メーリングリストの開設
 - 交流学習の実施

2001/1/18

印旛ネット

2

印旛ネット発足の経緯について説明します。

私たちは、個人的にホームページを持ち、自分たちの教育実践を紹介していました。はじめは一人一人が個々に行っていた活動でしたが、お互いのページに気が付いた教員同士が連絡を取り合い、徐々にメンバーが増え始めました。

以前から峯島、竹村の2名は、千葉大学附属情報実践センターのサーバーにアカウントを設定してもらってホームページを公開していましたが、メンバーの増加に伴って印旛ネットとしてのアカウント発行を依頼し、これを承諾してもらいました。

これにより、印旛ネットとしてのホームページの設置、メーリングリストの開設などが可能となり、メンバー相互の連絡が活発になっていきました。

プロジェクトの概要

- 達成された目標
 - サーバー設置
 - 交流学习
 - 総合的な学習

2001/1/18

印旛ネット

3

私たちは、印旛ネットの活動をさらに広め、よりよい教育実践を行いたいと考え、メンバーの一層の拡大を図りました。しかし、大きな壁として、印旛ネットの活動に参加するためにインターネットをはじめる手続きというものがありました。教員のほとんどはインターネットアカウントを所有していません。プロバイダーとの契約をしたのち、あらためて印旛ネットのメーリングリストに参加するという手続きが、メンバーの拡大を阻害していました。

そこで、私たち自身でインターネットへ接続するためのダイヤルアップサーバーを設置し、プロバイダーとの契約なしにインターネットをはじめ、印旛ネットの活動に参加できるようにしようと思いました。

現在、サーバーは2台のコンピュータで運用されています。

また、このことにより、当初の目的であった教員間での情報交換や交流学习が円滑に行える環境が出来上がりました。

それでは、それぞれの活動について説明します。

サーバー設置

- OCNエコノミーによる常時接続
 - 33600bpsモデムに対応
 - ホームページ開設可能
 - メールアカウント発行
 - セキュリティの強化

2001/1/18

印旛ネット

4

サーバーの設置については、Linuxマシンを用意し、OCNエコノミーによる常時接続を果たしています。このサーバーに電話をかけることによってダイヤルアップができるようにしてあります。

ホームページはメンバーが自由に開設することができ、メールアカウントも発行できます。

サーバー設置に伴い、セキュリティに関する情報には気を配り、強固なサーバー運用に努めています。

メールの送受信にはセキュリティホールが指摘されているsendmailを止め、qmailで対応しています。このことにより、メーリングリストも簡単に開設できるようになっています。

メーリングリスト

- 印旛ネットMLによる情報交換
 - ezmlmによるメーリングリスト開設
 - 教育実践から、近況報告まで様々な発言

2001/1/18

印旛ネット

5

サーバーの設置により、メーリングリストを新規に開設しました。まったく顔を知らない同士のMLとは違い、研修会などで顔を合わせる教員同士なので、発言には責任がありながら、気軽な会話を進めることができ、情報交換に大きく役立っています。

メーリングリスト運用のソフトとしてはMajordomoが有名ですが、qmail用のezmlmを利用しています。これは、一般ユーザー権限でもメーリングリストが開設できるため、印旛ネットの中にも独自にMLを開設して運用しているメンバーがいます。

交流学習

- 歴史討論会
 - ホームページ上での掲示板方式による歴史討論会
- なわとびランキング
 - 長なわとびの連続とびに挑戦し、学級の結束を高める

2001/1/18

印旛ネット

6

交流学習では、歴史討論会やなわとびランキングを行っています。

歴史討論会は、印旛ネットのホームページに論題を提示し、その論題について掲示板に書き込んでもらうものです。「縄文人と弥生人、どちらが幸せ？」などというタイトルに、参加者がいろいろなコメントを付けてツリーを作っていきます。

なわとびランキングは、学級で長なわとびを行い、連続で何回とべたかという記録をランキングするもので、参加校からメールで連絡をもらいます。もちろんこの結果はホームページに公開し、子供たちの意欲を高めています。

総合的な学習

- 印旛沼をテーマとする総合的な学習
環境汚染の進む印旛沼を守れ！

2001/1/18

印旛ネット

7

総合的な学習として、私たちの地域にある印旛沼を取り上げ、この水質調査を行ったり、意見の交換を行ったりして、学習の成果向上に勤めています。まだまだ活動は流動的で、成果のある実践報告は多くはありませんが、着実に情報の交換は進んでいます。

成果

- 教職員自身によるサーバー運用が可能
- 自前のサーバーにより活動が活性化する
- メンバーのスキル向上

2001/1/18

印旛ネット

8

以上のように、プロバイダーに頼らず教職員でサーバーを運用することが可能であることがわかりました。一度設置してしまえば、日常的なメンテナンスにはそれほど多くの労力をさく必要もありません。

そして、自由に容量などを気にせずホームページ作りを行ったり、情報交換を行ったりできるということで、メンバーの活動も一層活性化しました。

さらに、印旛ネットメンバーの、インターネット活用のスキルが向上したことも認められました。

今後の課題

- **サーバー運用について**
 - 基金が底をついた時点でどのようにするか
 - ・ダイヤルアップユーザー150名(8月20日現在)
 - ・メールアカウントユーザー150名(同上)
 - 管理者をどのように育てるか
 - ・管理者が長期不在の場合の対応
 - ・不正アクセスに対する対応

以上のような成果をあげてきた印旛ネットですが、サーバー運用をどのようにしていくかについて大きな課題があります。

現在、ダイヤルアップユーザーが150名を越え、プロバイダー代わりとして十分その機能を果たしているといえるサーバーですが、この運用はすべて基金が元になっています。基金が底をついた時点で、常時接続を終了した場合、多くのユーザーに迷惑が生じてしまいます。また、現在サーバー管理はすべて峯島が行っていますが、今後サーバーを管理できるメンバーを育てていく必要もあります。管理者が長期出張の場合や、不正アクセスがあった場合のログ検査など、一人の管理者では対応し切れない場合も生じてきそうです。



以上，簡単ではありますが，印旛ネットの活動報告とさせていただきます。